

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																														
大原スポーツ公務員 専門学校福岡校		平成14年4月1日	中島 敏明		〒812-0026 福岡県福岡市博多区上川端町14-13 (電話) 092-271-2281																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																														
学校法人 大原学園		昭和54年4月1日	中川 和久		〒101-0065 東京都千代田区西神田1丁目2番10号 (電話) 03-3292-6266																														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																														
文化・教養	文化教養専門課程	スポーツ学科		平成27年文部科学省 告示第13号	—																														
学科の目的	本学科は、教育基本法、学校教育法に基づき、スポーツに関する専門教育並びにビジネスに関する教育を施し、人格の陶冶を行い、もって有為な産業人を育成することを目的とする。																																		
認定年月日	平成28年2月19日																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	1,840	1,451	1,329	1,110	0	200																												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																													
80人		31人	0人	3人	6人	9人																													
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～12月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、次のとおりとする。秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。																														
長期休み	■夏 季: 7月下旬から8月下旬 ■冬 季: 12月中旬から1月中旬 ■春 季: 3月下旬から4月上旬			卒業・進級条件	所定の授業時間以上履修し、かつ、その該当する授業科目に合格した者で、平素の学習成績ならびに出席状況を審査して卒業(又は進級)を決定する。																														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席が多くなりつつある学生に対し、個別で連絡を取り、保護者面談を実施する。			課外活動	■課外活動の種類 フレッシュマン研修、スポーツフェスティバル、各種クラブ活動(野球、サッカー、テニス等)、ボランティア活動 ※一部、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止 ■サークル活動: 有																														
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 青山整形外科医院、リーフラス㈱、㈱ジェイエスエス、みやぎき整形外科、㈱太陽スポーツクラブ、川崎病院、のむら整形外科クリニック等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度在籍者に関する令和3年5月1日時点の情報)																														
	■就職指導内容 就職ガイドブック、就職ノートブック等の教材を用いて、業界研究、自己分析、応募書類作成、面接練習、身だしなみ・マナー等の指導を行っている。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NSCA認定パーソナルトレーナー(NSCA-CPT)</td> <td>③</td> <td>5名</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>③</td> <td>5名</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>幼児体育指導者検定2級</td> <td>③</td> <td>8名</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>NSCAジャパン認定体カトレーニング検定3級</td> <td>③</td> <td>16名</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>MOS Word 2016</td> <td>③</td> <td>7名</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>MOS Excel 2016</td> <td>③</td> <td>2名</td> <td>2名</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	NSCA認定パーソナルトレーナー(NSCA-CPT)	③	5名	5名	健康運動実践指導者	③	5名	4名	幼児体育指導者検定2級	③	8名	8名	NSCAジャパン認定体カトレーニング検定3級	③	16名	16名	MOS Word 2016	③	7名	7名	MOS Excel 2016	③	2名	2名
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																														
	NSCA認定パーソナルトレーナー(NSCA-CPT)	③	5名		5名																														
	健康運動実践指導者	③	5名		4名																														
	幼児体育指導者検定2級	③	8名		8名																														
	NSCAジャパン認定体カトレーニング検定3級	③	16名		16名																														
MOS Word 2016	③	7名	7名																																
MOS Excel 2016	③	2名	2名																																
■卒業者数 : 17 人																																			
■就職希望者数 : 15 人																																			
■就職者数 : 15 人																																			
■就職率 : 100 %																																			
■卒業者に占める就職者の割合 : 88.2 %																																			
■その他 アルバイト2名																																			
(令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)																																			
中途退学の現状	■中途退学者 2名 令和2年4月1日時点において、在学者34名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者32名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更の為			■中退率	5.9 %																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) ※有の場合、制度内容を記入 高校在学時の部活動における競技成績に応じて学費減免制度を実施している。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																		

<b>第三者による 学校評価</b>	<b>■民間の評価機関等から第三者評価:</b> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">有・無</span> ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)
<b>当該学科の ホームページ URL</b>	<a href="https://fukuoka.o-hara.ac">https://fukuoka.o-hara.ac</a>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先であるスポーツトレーニング施設と連携して教育課程の編成を行なうことにより、専門的な知識・技術修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②スポーツ分野における学修の中心はトレーニングプログラム知識である。このトレーニング技術について、教育課程編成委員会を通じて常に最新のトレーニング技術を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践修得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。
- ④当学園の教育課程の編成は一部の学科を除き学園本部が統括している。そのため教育課程編成委員会も各分野ごとに各共通の組織を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①位置づけについて

大原学園における教育課程の編成ならびに学園各校の教育成果の測定は学園本部内に各専門分野別に組織された教育本部で行なっている。よって、教育課程編成委員会は学園本部内に設置して、各校の授業科目、内容について統制を行う。

②意思決定の過程について

- ・前年度授業アンケート実施及び校内運営会議を通常実施。
- ・アンケート結果を踏まえて、校内運営会議にて現状課題を明確にしている。教育課程編成に係る授業計画や学習指導等の変更議案については、学科長及び学科教員が作成する。
- ・教育課程編成委員会において企業等委員から短期計画及び中・長期計画について意見聴取。なお、第1回教育課程編成委員会では、「前年度の教育成果の振り返りと今後の取り組み」、第2回教育課程編成委員会では、「今年度の取り組みに関する報告・課題整理、次年度以降の教育内容に関する見直し」について協議。
- ・学科長及び学科教員は、企業等委員から提示された課題や提案について、校内で再審議を行い、学校長の承認を経て、編成作業を進める。
- ・教育課程編成委員会にて授業計画や学習指導等による実施状況及び編成作業の経過報告。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
伊藤 友記	九州共立大学	令和3年7月1日～ 令和5年3月31日	②
畠中 宏一	セントラルスポーツ株式会社	令和3年7月1日～ 令和5年3月31日	③
中島 敏明	大原スポーツ公務員専門学校福岡校 校長	—	
藤田 隆之	大原スポーツ公務員専門学校福岡校 副校長	—	
秋元 良太	大原スポーツ公務員専門学校福岡校 課長代理	—	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月20日 14:30～16:00

第2回 令和2年11月20日 15:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ①キャリア教育として職業選択のアドバイスを行う際に、学業成績だけでなく、学生本人の意志及びに性格や気質などの適性を考慮した支援を行っていく。
- ②グループエクササイズに関する新規資格の導入及びカリキュラムの開発を行っていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①スポーツ・トレーニング施設に学生が出向き企業の方が実施する実習授業を受講する。
- ②スポーツ・トレーニング施設との連携による実習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術修得と、社会人としての意識改革、トレーナーとしての意識改革を実現する。
- ③スポーツ・トレーニング施設担当者と連絡を取り、実習授業を受け入れる場所の確定を行う。学生の知識・技術の修得状況を報告し、実習授業を行って欲しい内容を伝える。その後成長度合いに対し、企業からの評価を仰ぐ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

スポーツ・トレーニング施設担当者に授業依頼を行い、授業の承諾書を頂戴するとともに、打合せを行い、下記の4点について連携している。

- ① 実習日程、実習内容、到達目標、評価指標等を調整・決定
- ② 依頼している実習授業の実習実施
- ③ 学生の実習状況の確認及び担当者との情報交換のため、担当教員による訪問
- ④ 実習終了時の学生の学修成果の評価

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
トレーニング指導実践Ⅱ	レジスタンスエクササイズ、心臓血管系エクササイズ、プライオメトリックエクササイズ、スピードトレーニング等の指導実習	セントラルスポーツ株式会社
トレーニング指導実践Ⅲ	水泳と水中運動(アクアエクササイズプログラム)の指導実習	セントラルスポーツ株式会社
企業等実習Ⅰ	スポーツ関連企業等での職業体験型実習	各実習先企業等
栄養摂取と運動	栄養学の知識を学習すると共に栄養指導のスキルを実践しながら習得する	株式会社キャリアビジョン
運動障害と予防・救急処置	運動障害に関する医学的知識を学ぶと共に対処法を実践しながら習得する	一般社団法人巨樹の会 新武雄病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために大原学園教員研修規定に基づき、計画的に下記のとおり教員研修の環境を整える。

- ① 教員に対し学生に指導できるよう実践的な知識・指導スキル研修をみにつけさせる。
- ② 学生が在学中に取得する資格について教員も講習を受講していく。
- ③ 学外で実施される講習会受講
- ④ 指導力の修得に関する研修の受講

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「2020年度JRFUTトレーナー研修会(九州)」(連携企業等:公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会)

期間:令和2年11月7日(土) 対象:スポーツ学科教務担当者

内容:

- (1)ラグビーチームにおけるトレーナーとS&Cコーチとの連携
- (2)コンディショニングおよび競技パフォーマンス向上を目的とした実践例

研修名「2020年度JRFUTトレーナーセミナー(九州)」(連携企業等:公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会)

期間:令和2年11月8日(日) 対象:スポーツ学科教務担当者

内容:

- (1) ガイダンス/セーフティアシスタント制度の概要
- (2) ラグビー概論
- (3) レフェリーとの関係
- (4) 口腔外科
- (5) 内科的疾患
- (6) 整形外科的外傷・障害
- (7) コンディショニング論

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会」(連携企業等:公益財団法人 健康・体力づくり事業財団)

期間:令和3年3月22日(月) 対象:スポーツ学科教務担当者

内容:

- (1) 健康科学分野における最新の研究成果
- (2) 令和2年度認定試験(実技指導試験)評価の総括
- (3) 令和2年度健康運動実践指導者養成校修了者に対する認定試験結果及び令和3年度試験実施計画について

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「SFMA Level1」(連携企業等:FMS Japan)

期間:令和3年10月23日(土)、24日(日) 対象:スポーツ学科教務担当者

内容:SFMAの理論と実践

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「2021年度コーチカンファレンス」(連携企業等:公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会)

期間:令和3年9月7日(火) 対象:スポーツ学科教務担当者

内容:

- (1)「JRFU中期戦略における普及育成計画について」
- (2)「コーチング部門の中期戦略について」
- (3)「安全とインテグリティについて」
- (4)コーチングパート「チームのパフォーマンスを向上させるリーダーシップについて」
- (5)ストレンクス&コンディショニングパート
- (6)アナリストパート

研修名「オンラインコーチカンファレンス特別セミナー」(連携企業等:公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会)

期間:令和3年9月26日(日) 対象:スポーツ学科教務担当者

内容:「プレイヤーセンタード・コーチングを考える」

研修名「健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会」(連携企業等:公益財団法人 健康・体力づくり事業財団)

期間:令和4年3月(予定) 対象:スポーツ学科教務担当者

内容:

- (1)健康科学分野における最新の研究成果
- (2)令和3年度認定試験(実技指導試験)評価の総括
- (3)令和3年度健康運動実践指導者養成校修了者に対する認定試験結果及び令和4度試験実施計画について

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。
(4)学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。

(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ①キャリア教育を通して就職採用後の早期離職をできるだけ減らすために、学生のうちから職業理解を深め、想像と現実とのギャップが大きくなるような工夫を行っていく。  
②コロナ禍において、リアルな場所でのイベントは減ったが、オンライン形式等でのイベントは頻繁に行われているので、その中でボランティア活動などを行えるような支援を行っていく。

### (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
石丸 修平	福岡地域戦略推進協議会	令和2年7月1日～ 令和5年3月31日	企業等委員
田中 誠一	株式会社にしけい	令和2年7月1日～ 令和5年3月31日	企業等委員
畠中 宏一	セントラルスポーツ株式会社	令和2年7月1日～ 令和5年3月31日	企業等委員
野田 尊	Kids Sports Actry	令和2年7月1日～ 令和5年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

### (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ※令和3年9月30日付でホームページにて公開

URL:<http://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

## 5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

### (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。  
②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。  
③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

### (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の目標および計画、経営方針、特色、所在地、連絡先、学校の沿革
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、目指す資格・検定、資格取得・検定試験合格実績、卒業生の進路
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金、学費減免等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他)

URL:<http://www.o-hara.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 スポーツ2年制学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			トレーニング基礎理論Ⅰ	運動生理学に関する基礎的知識を身に付ける	1前	30	1	○			○		○		
2	○			トレーニング基礎理論Ⅱ	機能解剖とバイオメカニクスに関する基礎的知識を身に付ける	1前	20	1	○			○		○		
3	○			トレーニング基礎理論Ⅲ	トレーニングに対する生理的適応について基礎的知識を身に付ける	1前	20	1	○			○		○		
4	○			トレーニング基礎理論Ⅳ	スポーツ栄養学に関する基礎的知識を身に付ける	1前	20	1	○			○		○		
5	○			トレーニング基礎理論Ⅴ	運動心理学に関する基礎的知識を身に付ける	1前	20	1	○			○		○		
6	○			トレーニング応用理論Ⅰ	クライアントとの面談・スクリーニングに関する基礎的知識を身に付ける	1通	30	1	○			○		○		
7	○			トレーニング応用理論Ⅱ	レジスタンストレーニングのプログラムデザインに関する基礎的知識を身に付ける	1前	40	2	○			○		○		
8	○			トレーニング応用理論Ⅲ	有酸素運動のプログラムデザインに関する基礎的知識を身に付ける	1前	20	1	○			○		○		
9	○			トレーニング応用理論Ⅳ	プライオメトリクスとスピードトレーニングに関する基礎的知識を身に付ける	1後	20	1	○			○		○		
10	○			トレーニング応用理論Ⅴ	特定のクライアントのプログラムデザインに関する基礎的知識を身に付ける	1後	50	2	○			○		○		
11	○			トレーニング応用理論Ⅵ	施設・機器のメンテナンス、関係法令に関する基礎的知識を身に付ける	1後	20	1	○			○		○		
12	○			トレーニング実技Ⅰ	柔軟性トレーニング、W-up、自重トレーニングの実技能力を養成する	1後	40	1			○	○			○	
13	○			トレーニング実技Ⅱ	レジスタンストレーニングのエクササイズテクニック及びに指導力を養成する	1前	100	3			○	○			○	
14	○			トレーニング実技Ⅲ	心臓血管系エクササイズのエクササイズテクニック及びに指導力を養成する	1前	30	1			○	○			○	
15	○			トレーニング実技Ⅳ	プライオメトリクス、スピードトレーニングのエクササイズテクニック及びに指導力を養成する	1前	30	1			○	○			○	
16	○			トレーニング指導実践Ⅰ	エアロビックダンスの指導スキルを養成する	1通	30	1			○	○			○	○

17	○		トレーニング指導実践Ⅱ	各種トレーニングの指導スキルを養成する	1通	30	1			○		○		○	○
18	○		トレーニング指導実践Ⅲ	水中運動の指導スキルを養成する	1通	30	1			○		○		○	○
19	○		トレーニング理論総合演習Ⅰ	解剖・生理・バイオメカニクス・栄養・トレーニング・ケア・心理に関する初級レベルの知識を習得する	1前	20	1			○		○		○	
20	○		キャリアデザインⅠ	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ	1通	30	1			○		○		○	
21	○		一般教養Ⅰ	ビジネスで使用される初歩的な熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ	1通	30	1			○		○		○	
22		○	フィジカルアセスメントⅠ	関節可動域（ROM）測定方法を学ぶ	1前	30	1			○		○		○	
23		○	フィジカルアセスメントⅡ	運動機能障害に対応するために、動作パターンの理解と評価方法を学ぶ	1通	30	1			○		○		○	
24		○	コレクティブエクササイズⅠ	代償動作の修正エクササイズのエクササイズテクニック及びに指導力を養成する	1後	30	1			○		○		○	
25		○	トリートメント技能Ⅰ	スポーツマッサージを中心とした軟部組織モビライゼーションの手技を習得する	1前	30	1			○		○		○	○
26		○	テーピング技能	テーピングの効果・目的を理解し、効果的なテーピングの技能を学ぶ	1後	30	1			○		○		○	
27		○	スポーツキャリアデザインⅠ	スポーツに関わる産業分類を業種・職種ごとに学ぶ	1後	30	1			○		○		○	
28		○	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	1通	60	2			○		○		○	
29		○	Word応用	PCの基礎操作並びにWordの応用的な操作を習得する	1通	30	1			○		○		○	
30		○	Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用方法を習得する	1通	60	2			○		○		○	
31		○	Excel応用	MOS Excel試験に合格するために必要な操作に関する総合的な知識を身につけるための演習	1通	30	1			○		○		○	
32		○	PowerPoint 基礎	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する	1通	60	2			○		○		○	
33		○	PowerPoint 応用	PCの基礎操作並びにPowerPointの応用的な操作を習得する	1通	30	1			○		○		○	
34		○	販売知識基礎	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する	1後	90	3			○		○		○	
35		○	販売知識応用	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する	1後	90	3			○		○		○	
36		○	企業等実習Ⅰ	専門職に関する職業体験を行う	1後	30	1			○		○		○	○
37		○	トレーニング理論総合演習Ⅱ	解剖・生理・バイオメカニクス・栄養・トレーニング・ケア・心理に関する中級レベルの知識を習得する	1後	20	1			○		○		○	
38		○	トレーニング理論総合演習Ⅲ	パーソナルトレーナーに求められる高いレベルの知識を習得する	1後	50	2			○		○		○	



39	○	健康づくり施策概論	我が国の現状と健康施策について学ぶ	2前	20	1	○			○	○			
40	○	運動生理学	運動による生理学的な変化を学ぶ	2前	20	1	○			○	○			
41	○	機能解剖とバイオメカニクス	解剖学的知識を基に人体の力学的作用を学ぶ	2前	20	1	○			○	○			
42	○	栄養摂取と運動	身体活動・運動に対する各栄養素、エネルギー代謝の役割を学ぶ	2前	20	1	○			○	○			
43	○	体力測定と評価	体力測定の目的と評価方法について学ぶ	2前	30	1	○			○	○			
44	○	健康づくりと運動プログラム	身体活動・運動の生活習慣病に対する効果を理解する	2前	20	1	○			○	○			
45	○	運動指導の心理学的基礎	運動実践に関わる社会・心理・環境要因を学ぶ	2前	20	1	○			○	○			
46	○	健康づくり運動の実際	運動プログラムを構成、実演、指導できる能力を養成する	2前	40	2	○			○	○			
47	○	運動障害と予防・救急処置	運動中に発生しうる救急疾病や外科的損傷を学ぶ	2前	20	1	○			○	○			
48	○	実践数的Ⅰ 数的推理	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	2前	30	1	○			○	○			
49	○	実践数的Ⅱ 判断推理	論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2前	20	1	○			○	○			
50	○	実践数的Ⅲ 空間把握・資料解釈	数学的な基礎知識や空間把握能力を基に、問題を解答する	2前	24	1	○			○	○			
51	○	実践社会科学Ⅰ 政治	基本的人権など憲法の基礎知識から本試験レベルの実践的知識まで学ぶ	2前	20	1	○			○	○			
52	○	実践社会科学Ⅱ 経済	財政政策・外国為替などの経済分野と労働問題などの社会分野の基礎知識と本試験レベルの実践的知識までを学ぶ	2前	24	1	○			○	○			
53	○	実践演習Ⅰ 数的処理	基礎知識から実践的知識をアウトプットすることで知識の定着を図る	2前	24	1		○		○	○			
54	○	実践演習Ⅱ 社会科学	政治・経済の基礎知識から実践的知識をアウトプットすることで定着を図る	2前	28	1		○		○	○			
55	○	実践数的Ⅳ 数的総合	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	2前	40	2		○		○	○			
56	○	トレーニング指導実践Ⅳ	エアロビックダンスの特性・効果、指導者の役割について学ぶ	2前	60	2			○	○	○		○	
57	○	トレーニング指導実践Ⅴ	介護予防運動に関する指導力を養成する	2通	60	2			○	○	○		○	
58	○	トレーニング指導実践Ⅵ	水中運動に関する指導技術を養成する	2前	30	1			○	○	○		○	
59	○	トレーニング指導実践Ⅶ	健康運動実践指導者として、プログラムの構成・実演・指導できる能力を養成する	2後	40	1			○	○	○		○	
60	○	トレーニング理論総合演習Ⅳ	健康運動実践指導者試験筆記試験9領域の演習を行う	2後	60	3		○		○	○		○	

61	○	企業等実習Ⅱ	専門職に関する職業体験を行い、職業倫理感を高める	2後	30	1			○	○	○	○
62	○	コーチング理論・実習	コーチングを行っていく上で必要となる知識・スキルを学ぶ	2通	100	3			○	○	○	○
63	○	テーピング技能	テーピングの効果・目的を理解し、効果的なテーピングの技能を学ぶ	2後	30	1			○	○	○	
64	○	トリートメント技能Ⅱ	徒手療法の基礎を学ぶ	2前	30	1			○	○	○	
65	○	コレクティブエクササイズⅡ	機能改善を目的としたファンクショナルトレーニングについて学ぶ	2前	30	1			○	○	○	
66	○	キャリアデザインⅡ	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習	2前	30	1		○	○	○		
67	○	キャリアデザインⅢ	社会環境を理解し、課題をクリアする力を身につける為の学習	2前	30	1		○	○	○		
68	○	スポーツキャリアデザインⅡ	専門職のキャリア形成について学ぶ	2通	60	3	○		○	○		
69	○	スポーツキャリアデザインⅢ	中高年者向けの健康増進を目的とした運動指導を学ぶ	2通	60	2			○	○	○	
70	○	スポーツキャリアデザインⅣ	子ども向けの運動指導を学ぶ	2後	60	2			○	○	○	
71	○	スポーツキャリアデザインⅤ	ストレンクス&コンディショニングトレーナー、アスレチックトレーナー活動を行う	2通	40	1			○	○	○	○
72	○	マーケティング基礎	事例研究を通じてマーケティングを演習する	2後	90	3	○		○	○		
73	○	パソコン実習Ⅰ	Word、Excelを操作するための基礎的な知識を身につける実習	2前	30	1			○	○	○	
74	○	ビジネスマナー	ビジネス電話対応や接客、接遇に関するルールを学習する	2通	60	2	○		○	○		
75	○	販売職ビジネスマナー	接客に関する実践的な学習をする	2後	90	3	○		○	○		
76	○	接遇ビジネスマナー	企業内で必要とされる接遇に関する基本的なルールの学習をする	2通	30	1	○		○	○		
77	○	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	2後	60	2	○		○	○		
78	○	Word応用	PCの基礎操作並びにWordの応用的な操作を習得する	2後	30	1		○	○	○		
79	○	Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用法を習得する	2後	60	2	○		○	○		
80	○	Excel応用	MOS Excel試験に合格するために必要な操作に関する総合的な知識を身につけるための演習	2通	30	1		○	○	○		
81	○	PowerPoint基礎	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する	2通	60	2	○		○	○		
82	○	PowerPoint応用	PCの基礎操作並びにPowerPointの応用的な操作を習得する	2通	30	1		○	○	○		
83	○	直前答案練習Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	180	6			○	○	○	

84	○	直前答案練習Ⅱ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	102	4		○		○		○		
85	○	公務員時事対策	自然科学から国際問題まで幅広いジャンルの社会時事を学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
86	○	一般教養Ⅰ	一般教養として、社会で求められる漢字の知識を身につける	2前	30	1		○		○		○		
87	○	公務員適性検査演習Ⅰ	公務員試験で重視される事務適性試験の得点を強化する	2前	60	2		○		○		○		
88	○	公務員教養論文作文対策	公務員教養論文作文試験対策のレクチャーおよび実践練習を行う	2前	30	2		○		○		○		
89	○	実践人文科学Ⅰ 地理	気候や各国の産業などの基礎知識と本試験レベルの実践的知識を学ぶ	2前	20	1	○			○		○		
90	○	実践人文科学Ⅱ 歴史	大和政権から昭和までの日本史と中国の歴史を学ぶ	2前	30	1	○			○		○		
91	○	実践自然科学Ⅰ 生物・地学	生体から自然環境までの生物分野、地球の内部構造から宇宙までの地学分野を学ぶ	2前	28	1	○			○		○		
92	○	実践言語Ⅰ 文理・国語	文章読解と本試験レベルの実践的な国語を並行して進める	2前	15	1	○			○		○		
93	○	実践演習Ⅲ 人文科学	地理・歴史の実践的知識をアウトプットすることで定着を図る	2前	24	1		○		○		○		
94	○	実践演習Ⅳ 自然科学	生物・地学の基礎知識をアウトプットすることで知識の定着を図る	2前	16	1		○		○		○		
95	○	直前答案練習Ⅲ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	30	1		○		○		○		
96	○	公務員キャリアデザインⅠ	公務員及び民間就職の活動前に基礎的なビジネスマナーや所作を学ぶ	2後	90	3		○		○		○		
97	○	公務員キャリアデザインⅡ	秋試験10職種に向けた面接指導を行う	2後	120	4		○		○		○		
98	○	公官庁講話	現役公務員の様々な職種の方の講話を聴き職種への理解を深める	2前	20	1	○			○			○	
99	○	トレーニング実習	トレーニング関連の講義から得た知識を活かした実習を行う	2後	30	1			○	○			○	
100	○	職業実務Ⅰ	実務経験者の講義を受け、研究および発表を通じて地方行政の取り組みを学ぶ	2後	15	1		○		○			○	○
101	○	職業実務Ⅱ	警察署から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う	2後	15	1		○		○			○	
102	○	職業実務Ⅲ	官公庁(国家行政職)から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う。	2後	15	1		○		○			○	
103	○	職業実務Ⅳ	消防署から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に消防官職種研究を行う	2後	15	1		○		○			○	
104	○	職業実務Ⅴ	官公庁(国家公安職)から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う。	2後	15	1		○		○			○	
105	○	行政研究	災害対策に関する講義を受け、研究および発表を通じて防災への理解を深める	2後	30	1			○				○	○
合計					105科目		4,090単位時間(152単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>(試験)</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。</p> <p>2. 本校において必要と認められた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>(学業成績)</p> <p>1. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもって表し、次のとおりとする。</p> <p>(1) 秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>授業科目の成績は、5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP (Grade-Point) を与える。</p> <p>(卒業)</p> <p>1. 本校に在学し、1,840時間(65単位)授業時間(単位)の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。</p>	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	22週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。